

# 地域の元気づくりを応援します！

全国的に少子高齢化や人口減少が進むにつれ、私たちが住む佐世保市においても、住民が一体となって地域課題に取り組んだり、地域の価値を生み出したりする機会が減少しており、「地域の力」の低下が大きな課題になってきています。このような状況を受け、本市では地域の方々の連携や協力によりさまざまな地域課題を解決・改善する取り組みを応援する「地域力アップ支援事業」を平成27年度に創設しました。今回の特集では、この助成制度を活用し、地域で活動を行っている3つの団体にスポットを当て、その地域の取り組みなどを紹介します。皆さんの地域でも地域力アップに取り組んでみませんか。



「柚木よかとこづくり隊」のワークショップ(上左・下)や柚木地域の生産者同士が協力して行ったピザ販売の様子(上右)



## 若い人と一緒に 柚木を盛り上げていきたい

柚木よかとこづくり隊 実行委員 牟田 昇さん



柚木よかとこづくり隊  
柚木地域の地域資源を守り受け継ぎながら、地域を元気にすることを目的に結成されました。左写真後列の右端が牟田さん

### 元気な柚木にしたい

私が小さいころ、柚木は炭鉱で栄えていて、人口が6000人ほどいた時期もありました。近年では高齢化や過疎化が進んで人口が少なくなり、昔のような活気が薄れ、農業の後継者不足などもあって、再び元気な柚木にしたいという気持ちから「柚木よかとこづくり隊」を結成しました。

以前「柚木よかとこマップ」という景観紹介のマップを作成したときに、この柚木よかとこづくり隊を結成しましたが、そのメンバーも高齢化しているため、今後のまちづくりを担う若手世代の人材育成も行っていきたいと思っています。

### 横のつながりで新しい取り組みを

柚木よかとこづくり隊はまちづくりコーディネーターの方と一緒に柚木の活性化に向けて活動を行っており、これまで2回柚木地域について語り合うワークショップを開催しました。この隊のメンバーだけでなく、農産物直売所「柚木よかもん市」の出品者や若手の生産者も参加し、一人一人柚木への思いや考えを話してもらいました。「空き家を活用したい」「柚木の農産物をブランド化してPRしたい」など前向きな意見もたくさん出て、皆さんの柚木に対する思いを改めて共有で

きたことが良かったですね。

参加者の中には、農業者の交流の場が少なく、柚木を何とかしたいという気持ちがあってもなかなか行動に移せなかった人もいたそうで、そのような人にとっても良い機会になったと思います。

違う分野の若手生産者が交わることで横のつながりができ、お互いが協力し合えば、地域も次第に元気になっていくと思います。昨年12月のよかもん市・周年祭では、柚木のトマト生産者と酪農生産者が協力して新たにピザ販売に取り組みましたが、雨が降る中でも100枚近く売れ、良い経験になりました。

### 若い人にこの活動を知ってもらい参加してほしい

現在は地域力アップ支援事業を活用していますが、先々の活動を続けるとなると、自分たちの力で収益を上げ、活動資金として使えるような仕組みづくりが必要になってきます。そのためにはたくさんの方の協力が必要です。特に若い人の力が重要です。この活動を知ってもらい、若い人たちに参加してもらうために「ゆのきずな新聞」という広報新聞をつくり、情報発信をしています。若い人に限らず、地域住民全員にこの新聞を読んでもらい、柚木の活性化に意識を向けていただきたいと思います。

ワークショップで集まった意見を発表する様子



### 地域全体が同じ方向を向いて 柚木を盛り上げたい

この活動でこれまで会うことのなかった人と顔見知りになってあいさつされることが多くなりました。そうした人々のつながりがもっと広がっていったらいいですね。柚木の自然や食文化、歴史、農産物など豊富な地域資源を守り受け継ぎながら、たくさんの人が集まるまちにしたいです。

(取材日 1月24日)



## 自分たちの島は 自分たちの活動で楽しく元気にしたい

結楽の会 (宇久地域) 会長 本村 竹仁<sup>たけひさ</sup> さん

### ゆらく 結楽の会

宇久地区の住民を中心に結成し、地域内でさまざまな音楽コンサートを企画し運営しています

**にぎわいが薄れる宇久で音楽に  
触れて楽しんでほしい**

人口減少や高齢化が進み、祭りなどの地域行事が少なくなると内容が簡潔化されるなど地域のにぎわいが薄れる中で、音楽の力で少しでも地域の人を楽しませたいと思ったのが「結楽の会」を発足したきっかけです。テレビやインターネットで聴く音楽ではなく、目の前で見て聴いて音楽に触れてもらいたかったので、毎年島内の神社や体育館などでコンサートを開催しています。

**工夫を凝らして喜ばれるコンサート**

これまでのコンサートではプロの歌手や楽器演奏者を招き、三線や二胡、津軽三味線など、あまり見る機会のない珍しい楽器を演奏していただきました。私や地域の音楽同好会の発表の場にもなっているため、私たちもコンサートを開催するのが楽しみなんです。

舞台の演出や雰囲気づくりなどイベント当日まで話し合いを重ねて、お客さんに楽しんでもらえるよう工夫しています。その結果、来場したお客さんから「プロの演奏を目の前で聴けて感動した」との言葉をいただいたときは、本当にうれしかったですね。

**自分たちの活動で楽しく元気に**

設立当初は会費を集めてコンサートを開催していたのですが、資金がうまく集まらず赤字になることもありましたが、今年度は地域力アップ支援事業を活用しましたが、自分たちの島は自分たちの活動で楽しく元気にしたいと考えていたので、2年前から島内でフリーマーケットを開催し、そこで集めたお金をコンサートの運営資金にしています。フリーマーケットでは、会員や地域内の知り合いの人からいただいた不用品、地域の人が手作りのバッグ、流木や廃材にサポテンなどの植物を寄せ植えしたインテリア雑貨などを販売しています。回を重ねるごとに、お客さんが増え、収益も上がったことで、来年度からは地域力アップ支援事業を活用せずに自分たちでコンサートを開催できるようにになりました。

また昨年からは地域の有志の方の協力でもコンサート当日に露店を出していただきましたが、これも今後の資金の一つにしたいと考えています。結楽の会の活動だけでなく、地域の皆さんとも協力し合っただけでなく、音楽コンサート以外のつながりができ、音楽コンサート以外のこともお互い協力し合える関係性を築くことができました。



昨年開催された音楽コンサートの様子

**地域のためではなく  
自分がやって楽しいことをする**

この音楽コンサートがきっかけとなって地域の人が楽器に興味を持ち、演奏を楽しむようになってほしいです。そして自分だけでなく、他の人を楽しませるようになって、それがどんどんつながってほしいですね。地域のために何かをするのではなく、楽しいことをして、その結果として地域を元気にできたらいいと思いますし、無理なく継続できると思います。

(取材日 1月21日)



## 子どもが楽しみながら 学べる環境づくりを

広田理科工作教室 南須原 秀矩<sup>なすはら ひでのり</sup> さん

### 広田理科工作教室

毎月、小学生を対象に科学の面白さを教えています。南須原さんは広田地区で町内会長も務めています

**子どもの多い広田地区で科学教室**

広田地区にある広田小学校では全校児童が1061人(平成30年5月現在)と県内で一番多く、私が住む広田3丁目にも子どもたちが200人近く住んでいます。近年子どもたちが科学に対しあまり興味を持たなくなったことに不安を感じており、また南部には少年科学館のような施設もないことから理科工作教室を開催することにしました。

当時は子どもたちの夏休みの自由研究を手伝ってあげたいという気持ちで始めましたが、参加した子どもたちの中から「下村脩ジュニア科学賞 SASEBO」を受賞する子どもも現れ、次第に参加者も増えていきました。町内に住む元教師の方と2人でこの理科工作教室を始め、理科の実験と工作を行っていましたが、子どもたち一人一人の個性や学年によって個人差があることから材料費や準備に時間がかかるようになり、この事業を活用することにしました。

**科学を学び工作に生かす体験学習**

教室では子どもたちに分かりやすく科学を教えるために教材ビデオを使用し、そこで学んだ知識を使って、工作づくり体験を行っています。きちんと原理を理解することが大切で、特に小学1、2年

生の題材選びは大変です。科学の内容が難しいと理解してくれないし、逆に簡単なものだと工作をすぐに終わらせるような器用な子どもは飽きてしまうので、毎回苦労しますが、実際に教室で学び、子どもたちが楽しんで工作している姿を見ると、そんなことも忘れてしまいませんね。

**子どもがきっかけで  
つながるまち**

最近では地域のつながりが薄れてきていると聞きますが、この教室を開いてから町内にいる子どもたちの顔を知ることができましたし、子どもたちも外で会ったときは元気にあいさつをしてくれるんですよ。また、この教室に通うことで子どもたちの保護者も顔見知りになりました。子どもがきっかけとなり、大人同士のつながりも広がっているんです。

私は子どもが生き生きと暮らせる地域は、まち全体も元気になると考えています。そのため、まずは子どもたちが楽しみながら学べる環境づくりをしていきたいと思っています。

これからも活動を続け、他の地域の皆さんから広田地区に住みたいといわれるような住みよいまちにしていきたいですね。

(取材日 1月30日)



広田3丁目の公民館で開催されている理科工作教室の様子

## 地域力アップに取り組む団体を募集します

地域の方々が連携・協力し、さまざまな地域課題を解決・改善していく取り組みを通して地域力の向上を目指す団体等を応援する「地域力アップ支援事業」。本市ではこの制度を活用して取り組む団体を募集します。詳しくは市ホームページをご覧ください。



### 【応募できる団体】

次の要件を全て満たす団体

- 構成員が5人以上の団体（半数以上が佐世保市民であること）
  - 主に市内を活動拠点としていること
  - 組織の運営に関する規則（規約・会則など）を有していること
  - 事業を継続かつ計画的に行うことができること
- ※既存の団体のほか、新たに組織する団体も応募することができます。

### 【補助率】

補助対象経費の9割（上限50万円）

※申請後、審査会で取り組み内容のプレゼンテーションを行っていただきます。

### 【補助対象となる事業】

次の要件の全て満たす事業

- 地域住民の連帯強化や地域振興などに資する事業で地域力アップにつながるもの
  - 原則として市内で実施される事業（市外での活動の必要性が認められる場合を除く）
  - 継続可能な事業
  - 年度内に完了する事業
- ※営利を目的とした事業や国、県、市、その他の機関から補助金を受けている事業などは対象外となります。

### （対象事業例）

活動区分	具体例
産業振興	特産品ブランド化事業、販路拡大事業、特産品開発事業など
地域活性化	地域活性化イベント、農業体験事業など
人材育成	観光ボランティア育成事業、人材育成養成講座など
環境美化	環境美化事業、花いっぱい事業など
観 光	観光PRイベント事業、史跡の環境づくりなど
そ の 他	地域力アップが見込める事業

※事業は上記分野だけでなく、地域力アップにつながる活動であれば対象となる場合があります。

### 佐世保市地域力アップ支援事業者・地域おこし協力隊報告会

平成30年度の地域力アップ支援事業者と地域おこし協力隊の活動状況を振り返り、今後の活動の展望を説明する報告会を開催します。これから地域力アップ支援事業に申請予定の団体や興味のある方などのご来場をお待ちしています。

日程 3月22日（金）18時～20時 場所 スピカ  
料金 無料 定員 50人程度 ※申し込み不要。

特集に関する問い合わせ 地域政策課 ☎24-1111

## 地域おこし協力隊 活動状況報告会

本市では現在7人の地域おこし協力隊員がそれぞれの地域の活性化を目指し、さまざまな事業に取り組んでいます。1月17日に市役所で開催した活動状況報告会には、そのうち6人が参加し、本年度の取り組みや今後の計画を朝長市長などに発表しました。

黒島で活動する山中彩香さんと初田育子さんは交流人口を増やすため「くろしまde遊び隊」を発足させたことやウォーキングイベントを企画していることなどを報告。江迎・鹿町地域担当の金城和希さんは江迎の街並みを生かすコスプレイベントを初開催したことなどを発表しました。宇久地域で活動する北原美穂子さんと安永優希さんは地元の特産品の販路開拓やイベントグッズのデザインなどに取り組んでいることを紹介。本市の移住コーディネーターとして活動している谷口佳織さんはさせぼ移住サポートプラザ（新港町）での移住者支援の状況などを報告しました。本市ではこの他、俵ヶ浦半島を担当する久米川泰伸さんが活動しています。

協力隊の任期は最長3年で、隊員の皆さんはその地域に移住し、暮らしながら地域の活性化を目指し、地場産品の開発やPRなどさまざまな活動を行っています。市民の皆さんの応援をよろしくお願いいたします。

☎地域政策課 ☎24-1111

1 前列左から金城さん（江迎・鹿町）、安永さん（宇久）、北原さん（宇久）、後列初田さん（黒島）、山中さん（黒島）、谷口さん（移住）  
2 活動状況報告会での発表の様子  
3 協力隊が主催したカヤックレース大会での1コマ（黒島）  
4 江迎で開催したコスプレイベントの参加者  
5 隊員がデザインした宇久島音楽祭の公式Tシャツ  
6 俵ヶ浦半島未来計画実現に向け開催された「東京と佐世保ミーティング」（東京・渋谷）  
7 サンシャインシティ（東京・池袋）で開催された「アイランダー2018」で行った移住PR

